

朝日大学病院医療事故の公表について（包括的公表）

朝日大学病院の理念の一つに「安全で質の高い医療の提供」があります。当院では理念に基づき医療事故防止のため様々な取組を行っていますが、この様々な取組に加えて院内で発生した医療事故を自発的に公表することが「社会」から求められています。そこで当院では、院内・院外への情報提供や医療の透明性・信頼性を資する場として定めた医療事故公表基準に基づき 2023 年度に発生した当院の医療事故をここに公表します。

2024 年 6 月
朝日大学病院
病院長 日下 義章

期 間 ： 2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日
【医療過誤による患者影響レベル 3 b 以上の公表件数と概要】
公表件数 ： 2 件

分類・レベル	薬物・患者影響レベル 3 b
事例	心臓リハビリテーションに外来通院中の 80 歳・男性。 訓練前の血圧・脈拍（BP 138/56mmHg HR 59bpm）は安定。自転車エルゴを低負荷(15watt)、心電図モニタで状況を確認して実施していたが、急激徐脈で意識消失。自転車エルゴから転落した。 直後の心電図は 2:1 ブロック波形、心臓リハビリテーション当番医・看護師に連絡、ベッド上安静で血圧を再検（BP 155/61mmHg HR 31bpm）、意識回復して指示動作可能。 その後、心臓リハビリテーション当番医の指示で救急外来対応、高度房室ブロックで入院、自然に洞調律復帰した。 また、転落後に右肩の痛みを訴えられ、整形外科受診で右鎖骨骨折と診断、保存療法となった。経過は問題なく、3 ヶ月後に終診。
再発防止策	投与されていたアミオダロン(100mg)とメインテート(2.5mg)の効果が加齢による影響で強くなり、薬剤性房室ブロックで意識消失したと考えられた。アミオダロンは中止、メインテートは 1.25mg に減量。その後、房室ブロックによる意識消失は起きていない。 当該患者さんの心臓リハビリテーション再開に対しては、通常の自転車エルゴからテラスエルゴ（椅子に座って長座位で自転車漕ぎ）に変更、重心を低くして外傷防止に備えています。

分類・レベル	薬物・患者影響レベル 3b
事例	処方内容にインデラル錠のほかに片頭痛薬が多くあり、インデラル錠 10 mg を調剤するべきところを誤って片頭痛に高頻度で処方されるイミグラン錠と誤り込み調剤した。処方薬を患者に交付後、服用された際に誤調剤に気づいた。服用後気分不良となったため、処方医による診察後制吐剤を点滴し経過観察の対応となった。
再発防止策	① 思い込みによる確認エラー 処方内容の確認時の思い込みからの誤調剤が発生している。処方せんに記載の薬品名、薬袋に記載の薬品名と調剤した実薬の 3 点確認が実施できていない。具体的に記載の名称・表示の確認を徹底が必要と考え薬剤師に確認の徹底を行うように注意喚起した。 ② 棚の表示について インデラル錠 10 mg には複数の適応症があるが、使用頻度は少ないが“片頭痛発作の発症抑制”がある。そのため、今後も思い込みによる誤調剤の可能性も考えられることから、いずれの薬剤棚に「取り違え注意」の表示を行い注意喚起した。 ③ 医薬品バーコードチェックシステムの導入検討 処方せんに記載の医薬品と実薬をバーコードで照合する医薬品バーコードチェックシステムを導入することとした。